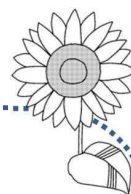


～中学生の保護者の皆様へ～



子どもと話していますか？

アメリカなどでは、子どもが思春期になった頃、母親が仕事をやめる人もいます。「一番大切な時期と一緒にいて話を聞いてあげたい」と思うそうです。日本では、乳幼児期に「一緒にいてあげたい」と思う人の方が多いようです。どちらがいいという事ではありませんが、思春期もとても大切な時期だという事に、まちがいはないようです。

「大切な時期だから話をきいてあげたい」と思っても、「子どもの方が話してくれなくなった」と言って悩む方も多いようです。そんな時は、子どもが興味をもっている物、スポーツや好きな音楽、マンガやアニメ、食べ物やファッションなどに親も関心を持って、話題にするといいですよ。自分は興味があっても、それらの情報を集めておいて話題についていくと、見直されたりします。

以前、うちの子は、ある先生に絶対的な信頼を寄せていました。うちの子は「あの先生とは気が合う」と言っていたのですが、先生は「子どもたちが好きと言った映画や音楽、マンガなどは、ざっとでも見たり聞いたりして、話題についていけるようにしている」と言われていました。

話せる関係にしておくためにも、子どもの好きな物を知り、話題作りの努力をする事も、大切な事だと思います。



保護者の皆さまにお勧めの本

「2時間の学習効果が消える！

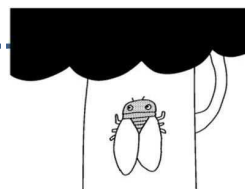
やっちはいけない脳の習慣」(青春新書)

横田晋務 著 (青春出版社)

この本では、小5から中3までの生徒を対象に、7年間(延べ7万人)調査された結果や、5歳から18歳までの約230名の追跡調査を行い、脳の画像を撮り、ゲームプレイ時間と認知機能の関係などを調べられています。

この中には、「携帯電話のラインを使用した子どもの成績の下がり方が激しい」とか「テレビやゲームで長時間遊んだ後は、30分から1時間は前頭前野が十分に働かない」とか「長時間ゲームを行う子は言葉に関する能力が低い。記憶ややる気などを司る脳の細胞密度が低く、発達が阻害されている」など、衝撃的な内容が書いてありました。

でも、私たちは、スマホのない時代には戻れません。ならば、上手につきあう方法を、親子で学び、ゲームやスマホの利用をコントロールするすべてを身につけましょう。幸い、1時間未満の使用であれば成績は下がらない(ラインは少しの使用でも集中力が落ち、成績は下がる)そうですので、子どもと話し合って我が家のルールを決めるといいですね。



家庭教育支援員

清田智子

生涯学習課

25-7232